



2024流山憲法集会

5月11日(土)

開場：13：30 開会：14：00

あきら

講師 **川崎 哲さん**
「戦争はごめんだ！平和な世界の作り方」

会場：流山市生涯学習センター

つくばエクスプレス セントラルパーク下車5分

資料代 500円 学生無料

ピースボート共同代表。2017年にノーベル平和賞を受賞した「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」の国際運営委員兼会長。核兵器廃絶日本NGO連絡会の共同代表として、NGO間の連携および政府との対話促進に尽力してきた。



岸田訪米の危険な「成果」？

アメリカを訪問した岸田総理。レッドカーペットで迎えられ、国賓扱いで満面の笑み。支持率20%にまで落ちた日本国内では見たことのないご機嫌の表情でバイデン大統領とのツーショットに収まった。

歴代の自民党総理大臣がなしえなかった、GDP比1%を突破し、軍事費の倍増を実現したのは私だ、と大きな土産を持って大統領に報告した。米議会でも上下院で演説し、大歓迎を受けたという。それほど「画期的」な出来事だと米側が評価している。それを岸田総理は大国アメリカから対等に評価されるようになったと大喜びし、日本国民にもそれを誇って、支持率回復を狙っているとのもっぱらの評判である。そのお土産にたいするアメリカからの贈り物は日本国民にとって大変なものになる恐れがある。大統領は「日米同盟が始まって以来最も重要なアップグレード」だと自衛隊が米軍の指揮下に入ることを絶賛した。それはアメリカの担ってきた世界での覇権の一部を担わされ、中国との争いの先頭に立たされることを意味する。敵基地攻撃とミサイル防衛を同時に行うIAMD（統合防空ミサイル防衛）にくみこまれ、一体化する。北朝鮮や中国からミサイルが発射されたら10分程度で日本に到達する。日米で「協議」したり、日本の関係閣僚会議などする時間はない。直ちに敵基地攻撃が始まってしまう。決して日本の安全を保障することにはならない。危険な選択の第一歩だ。



自衛隊ヘリ2機が衝突墜落

4月20日夜、対潜水艦戦の訓練中の海上自衛隊ヘリ2機が墜落した。現場は水深5000mで機体の回収には困難がある。回収されたというフライトレコーダーには、機体の異常は認められないが、衝突防止のための装置は作動しなかったという。

訓練は海上すれすれに飛行して、音波を発生する装置（ソナー）から発信した音波の反射で海中の敵潜水艦を発見して攻撃するというものだという。

かつては潜水艦が発するエンジン音などを海中に投下したソナーで聴きとっていたが、いまは潜水艦も進化して音を出さなく

なり、ヘリからつり下げたソナーで微少なスクリー音や、こちらから発信し音



波の反射を受信する。海面すれすれに飛行するのは高度な操縦が必要な上に、夜間の暗闇、2機、3機でチームを組んで至近距離で飛行するので危険度が高い。

防衛問題専門家の半田滋氏によれば

「事故が起きた伊豆諸島の鳥島東方海域の天候は晴れ、満月の2日前に当たり、月明かりもあった。他機の接近を知らせる計器に加え、衝突防止灯もあるので目視でも互いの位置は確認できたはずだ。」「……しかし各新聞の報道で気になるのは、事故の遠因に訓練不足があり、その理由は予算不足だとの論調があることだ。岸田政権は22年12月に安全保障政策を見直し、5年間の防衛費総額を43兆円と過去5年間より17兆円も増やすことを決めた。防衛省はそれでも足りないと言額を主張し始めている。

不幸な事故を利用して『焼け太り』を図るならば言語道断と言わざるを得ない。雑念を捨て、虚心坦懐になって亡くなった隊員1名を丁重に弔い、行方不明となった7名の発見を急いでもらいたい。」と言う。

いま様々な仕事で人手不足になっており、これまでも自衛隊全体に定員さえ充足できていないところへ、装備だけをアメリカからどんどん買い入れてもそれを扱える人がいない。ヘリの需要は災害出動でも高まっている。

アメリカの戦略で作り上げられた台湾有事をはじめ世界戦略への加担によるこの前のめりの岸田内閣は危険この上ない。

有事の避難計画

九州・沖縄先島

中国の海洋進出や台湾有事を理由に防衛力強化を騒ぎ立てた結果、次々に矛盾が拡大する。

南西諸島などにミサイルの危機と反撃体制の強化をアピールすればそれに対する反撃のそなえはどうするのか？となり防空システムの構築となり、海に囲まれた日本は海上、海中からの攻撃にどう備えるのか、となる。

しかしそれは軍事の話であり、一般国民の安全は戦場に置き去りではないかと言うと、避難拠点を作ります。ミサイルでも安全な建物などできるのかと言えば、地下壕を作るために補助金を出します。みんなが出来るわけもなかろうと言うと、集団で他地域への避難（疎開）する計画を立てます。先島の12万人もの人々を移送できるのか？先島に船を派遣し、人々を集めて乗船させ、1週間もかかって九州まで安全に送れるのか？かつての戦争と違ってミサイルや戦闘機、爆撃機などを使った戦争は時間との戦いでもある。それを実際に仕切るのは誰がするのか？公務員は最後の船を見送るまで責任を持つとしたら、その当人たちはどうなるのか。疎開先の生活をどのようにするのか……。限りがない。

沖縄の人々はかつて大戦中に食料もないマラリアの流行地に強制移動させられたり、スパイを疑われて殺されたり、本土への移住の船を撃沈されたりと散々な苦境を味わってきた。砂上の楼閣のような計画でウチナンチュウを黙らせようとする政府に「また、捨て石にされるのか」と県民の不安と怒りは当然だろう。

イスラエルの残虐

パレスチナ住民を南部に追いやった上に、そこに避難した人々を攻撃し、最後の命綱だった病院をも爆撃、破壊しました。イスラエル軍が今月7日に撤収した南部ハンユニスのナセル病院では、殺害の証拠隠滅を図ってか300人を超える人々が地下深く埋められていた。一部は手足を縛られ、腐乱した惨状だった。



かつて迫害を受けたユダヤ人が救いを求めて建国したはずの国家が、いま逆にこのような暴虐を繰り返すのを、どのように世界は見ているのだろう。第一次大戦前まで、この地ではパレスチナ人もユダヤ人も混住し平穏に共存し、協力し合っていたのに、大国の利益のために分断され、いがみ合わねばならなくなった。いったんこうした怨嗟の悪循環が始まってしまうと、それを収めることは容易ではない。

刈羽原発再稼働に不安

東京電力は4月17日、再稼働を目指す柏崎刈羽原発7号機（新潟県）の核燃料の装填（そうてん）作業で、圧力容器に制御棒を挿入する装置を動かそうとしたところ、装置が動く前にブレーカーが落ちて中断。電源設備に問題は見つからなかったが、予備品と交換し、同日午後11時半ごろに作業を再開したと報道されている。

核燃料を挿入する作業は再稼働に必要な検査の一環で、東電が今月15日から始めた。使用済み核燃料プールに保管されている872体の核燃料を2週間ほどで原子炉に移し、設備の確認作業を進める予定だった。

作業に着手した15日にも別の装置でトラブルがあり、3時間ほど中断した。東電は「安全に問題はない」とするが、作業開始から3日間に中断が相次ぐ事態となった。

その後東京電力は約16時間後の17日深夜に作業を再開したと発表した。トラブルの原因は分かっていない。

（原因はわかっていないというのに、「安全に問題はない」というのは理解できない。）

東京電力柏崎刈羽原発 東京電力福島第1原発と同じ沸騰水型軽水炉で、首都圏に電力を送る。1～7号機があり、総出力821万2000キロワットは世界最大規模。営業運転は1985年9月に1号機が開始、97年7月に7号機が始めた。現在は全基が停止。東電は新しく出力の大きい6、7号機の再稼働を優先して目指している。2021年1月からテロ対策の不備が相次ぎ発覚。原子力規制委員会は4月に事実上の運転禁止を東電に命じ、23年12月に解除した。

お知らせ（発行が遅れ、事後報告になるかもれません）

◆憲法キャラバン（5月3日）

九条の会・流山では下記の通り憲法キャラバンを行います。4つの駅での宣伝にどこでも結構です。ご都合がございましたらご参加ください。

①北部では

10:00～10:30 江戸川台業務スーパー前で宣伝

11:30～12:00 おおたかの森駅自由通路で宣伝。

②南部地域では

9:30～10:30 南柏駅で街宣

11:00～12:00 南流山駅で街宣

◆憲法大集会

5月3日 13:00開会 14:30パレード出発

有明防災公園（江東区有明3-8-35）総がかり行動実行委員会、市民アクション、憲法壊すな実行委員会、憲法守り活かす共同センター、九条の会など共催

「九条の会・流山」宣伝と署名

◆5月9日(木) 15:30

おおたかの森駅自由通路

~~~~~

**カンパはこちらの郵便振替口座へ**

00130-5-464735 口座名 九条の会・流山